

## 2025\_0115 「2025年最初の満月（写真）」日々の理科 3814号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

昨夜は「2025年最初の満月」でした。1月の満月ですから「ウルフムーン」ですね。「満月」の正確な定義の説明はちょっと難しいです。新月（朔）の一瞬から次の新月の一瞬までの期間（時間）を「1朔望月（さくぼうげつ）」といい、平均およそ29.5日です。新月（月齢0）の一瞬からの日数を「月齢」といいます。計算上、満月になった（つまり完全にまん丸になった）一瞬の月は、 $29.5 \div 2 = 14.75$ となります。しかし、満月の月齢は約13.8～15.8までの間で、都度変動します。

では「満月の一瞬」とはどういう時を言うのでしょうか？それは「月齢」とは別の概念「月相」の数値が決め手となります。「月相（げっそう）」とは、月齢とは関係なく、実際に見える月の形状（欠け具合）を表す数値で、0～28までの整数や少数で表します。新月の一瞬は月齢も月相も「0.00」で一致しています。半月（上弦）の一瞬が「月相 7.00」、満月の一瞬が「月相 14.00」、半月（下弦）の一瞬が「月相 21.00」です。つまり「真の満月」とは「月相 14.00の一瞬の月」ということになります。

昨日の満月は、午前7時30分頃に月相が14.00、つまり完全なまん丸になりました。その後一旦西に沈んで、再び東に昇ってきたのが昨夜の満月です。完全な満月から約12時間後の月だったので、厳密には「満月」ではありませんでした。写真でもよく見ると、左上がわずかに欠けているのがわかります。

(2025年1月14日／東京都内)

